



福岡歯科大学
医科歯科総合病院概要
2017

Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

福岡歯科大学医科歯科総合病院

病 院 の 理 念

私たちは、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、安全で質の高い思いやりのある病院をめざします。

病 院 の 基 本 方 針

1.患者中心の医療

患者さんの人格を尊重した優しさのある医療を提供し、医療倫理の向上をめざします。

2.高度医療の提供

医科歯科総合病院として多職種が協力し、高度な医療を推進します。

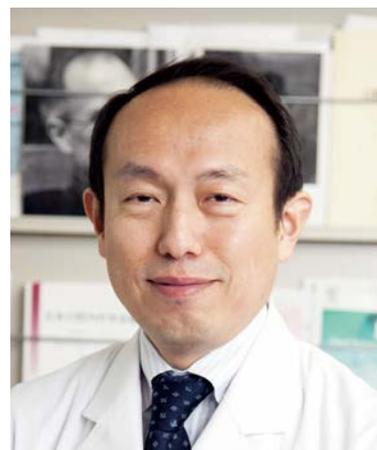
3.地域医療への貢献

地域の基幹医療施設として、地域包括ケアシステムに応じた連携医療を充実させます。

4.全人的医療を実践できる医療人の育成

高い倫理観を備え、患者さんの身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。

ご挨拶



病院長
池邊 哲郎

医科の病院として

本院は、23の医科診療科と4つの歯科診療科からなる総合病院です。常勤の医師は32名、歯科医師は246名です。標榜する歯科は、一般歯科、小児歯科、矯正歯科、歯科口腔外科の4つですが、歯科大学が母体ですので、その内容は、12の専門歯科に分かれています。本院はこれまで歯科大病院として昭和48年以来長年に渡って地域の方々にご利用いただいておりますが、平成17年から「医科歯科総合病院」として生まれ変わり、医科診療にも力を入れています。つまり本院は医科と歯科とが並立する全国でも稀な病院です。そのために、九州大学病院と福岡大学病院から優秀な医師を派遣していただき、両病院と密接な連携関係にあります。それぞれの診療科に専門性の高い医師がいますので、是非このパンフレットの内容を閲覧していただき、患者さんの症状に適合する医師を見つけていただきたいと思います。

「口腔医学」と「医科歯科連携」

本院では医科と歯科とが協力して一人の患者さんの健康に携わる「医科歯科連携」に力を入れています。それは近年お口の病気が全身の病気を悪化させたり、全身の病気の症状がお口に現れたりすることがわかってきたからです。歯科医師は医学の知識を身につけて患者さんの全身の病気に配慮しなければなりませんし、医師はお口の健康状態にも眼を向けなければなりません。このような考え方の嚆矢となったのが本学の故・田中健蔵前福岡学園理事長の提唱した「口腔医学」という学問体系です。現在の水田祥代理事長にも引き継がれて支援いただいております。「口腔医学」という学問を臨床の場で実践するあり方が「医科歯科連携」で、本院の大きな特徴です。同じキャンパスには平成9年に開学した「福岡医療短期大学(歯科衛生学科)」と平成29年に開学した「福岡看護大学」とがあり、歯科衛生士と看護師による新たな「医科歯科連携」も展開して行こうと考えています。

本院のちょっとしたアピール

平成29年に訪問歯科センターと内視鏡センターを開設いたしました。訪問歯科センターは、在宅—病院—老人施設間で医科歯科連携を展開し、地域包括ケアの一貫として他病院の周術期口腔管理にも貢献します。内視鏡センターでは、より高度で低侵襲の医療を目指して安心安全な医療を提供します。また、嚥下の専門家を備える耳鼻咽喉科と高齢者歯科を中心に、摂食・嚥下カンファレンスを院外の方にも開放して行っており、嚥下治療および摂食・嚥下リハビリに力を入れています。

目 次

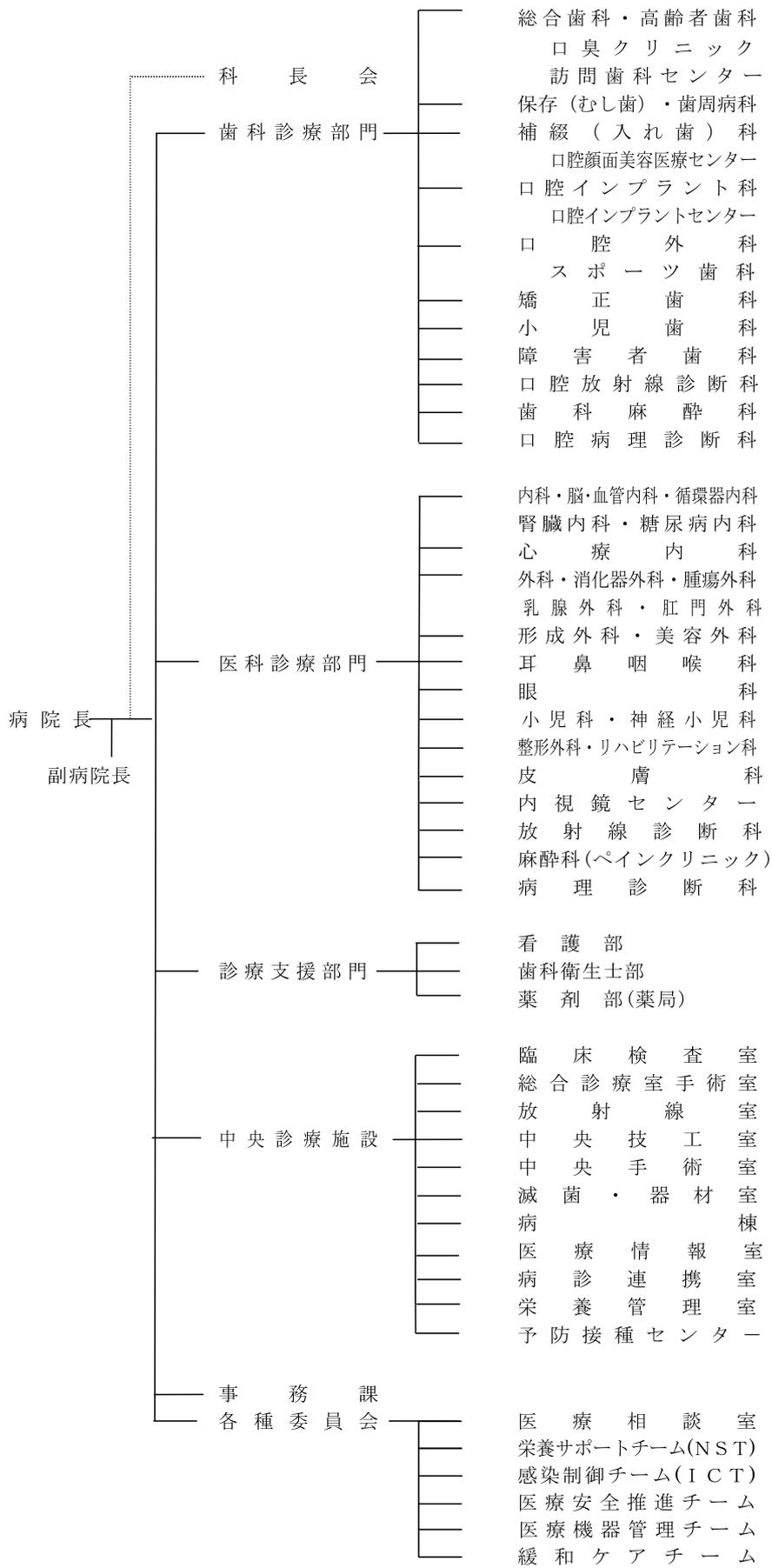
1. 沿革概要	3
2. 組織図	5
3. 管理者および役職員	6
4. 職員数	7
5. 病院の収入	8
6. 診療科別患者数	9
7. 診療科の紹介	11
8. 医療機関の承認・指定状況.....	23

1. 沿革概要

昭和47年	4月	1日	福岡歯科診療所開設 宮崎三雄教授 診療所長に就任
昭和47年	7月27日		学校法人 福岡歯科学園寄附行為認可 福岡歯科大学の設置認可
昭和47年	10月	1日	松本洋一教授 初代附属病院長に就任
昭和47年	10月23日		福岡歯科大学附属病院の開設認可
昭和48年	2月21日		福岡歯科大学附属病院開設 (病床30床)
昭和48年	4月	1日	福岡歯科大学開学 附属病院歯科診療を開始
昭和49年	6月	1日	内科開設
昭和50年	4月	7日	歯科入院病棟開設
昭和50年	7月	1日	外科開設
昭和50年	8月	1日	基準寝具承認
昭和50年	11月	1日	基準給食承認
昭和51年	8月24日		病床19床増設
昭和51年	9月16日		内科、外科入院病棟開設
昭和52年	8月	1日	基準看護特1類承認
昭和52年	10月	1日	第1期生臨床実習開始
昭和53年	4月	1日	麻酔科開設
昭和54年	2月	5日	古本克磨教授 附属病院長に就任
昭和54年	8月	1日	病床1床増設 (合計50床)
昭和60年	4月	1日	松浦智二教授 附属病院長に就任
昭和62年	6月	1日	卒業直後臨床研修開始
平成元年	4月	1日	吉田 穰教授 附属病院長に就任
平成元年	10月	1日	予防歯科開設
平成元年	11月	1日	矯正歯科・小児歯科 診療科目の届出
平成2年	4月	1日	松尾 繁教授 附属病院長に就任
平成2年	6月22日		病棟避難スロープ及び霊安室設置
平成3年	4月30日		高齢・障害者歯科開設
平成5年	4月	1日	松本光生教授 附属病院長に就任
平成6年	4月	1日	富岡徳也教授 附属病院長に就任
平成7年	3月20日		磁気共鳴コンピューター断層システム(MRI)の設置
平成8年	3月25日		顎機能検査室の設置
平成8年	5月28日		高速ヘリカルコンピューター断層システム(CT)の設置
平成8年	9月24日		口腔インプラント科開設
平成8年	11月	1日	歯科口腔外科 診療科目の届出
平成9年	5月27日		循環器科、消化器科 診療科目の届出
平成10年	4月	1日	松本光生教授 附属病院長に就任
平成11年	10月	1日	口臭クリニック・スポーツ歯科・訪問歯科開設

平成12年	3月29日	病棟増改築工事の安全祈願祭施行
平成12年	4月1日	羽生哲也教授 附属病院長に就任
平成12年	11月30日	病棟増改築工事完成
平成13年	4月1日	総合歯科開設
平成14年	4月1日	本田武司教授 附属病院長に就任
平成15年	2月1日	本川渉教授 附属病院長に就任
平成16年	2月20日	病院3階総合診療室手術室改修工事
平成16年	3月22日	病院玄関（エントランス）周り改修工事
平成16年	3月30日	病院3階シミュレーション実習室改修工事
平成17年	1月25日	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院へ改称
平成17年	2月1日	磁気共鳴コンピューター断層システム（MRI）の更新
平成17年	4月1日	心療内科開設、肛門科 診療科目の届出
平成17年	7月14日	特定共同指導を受審
平成18年	2月12日	カルテ検索システム導入
平成18年	9月29日	社会保険医療担当者の個別指導の実施
平成19年	3月23日	全身用コンピューター断層撮影装置（ボリュームCT スキャンシステム）の更新 歯科用CT 3D Xの設置
平成19年	4月1日	石川博之教授 病院長に就任 耳鼻咽喉科・形成外科・口腔顔面美容医療センター開設
平成19年	7月1日	病院情報システム（HIS）稼動（ホーダリングシステム開始）
平成20年	5月19日	（財）日本医療機能評価機構認定証授与
平成21年	4月1日	本川渉教授 病院長に就任
平成22年	4月1日	松浦正朗教授 病院長に就任 眼科開設 放射線診断科、脳・血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、 消化器外科、腫瘍外科、乳腺外科、肛門外科、美容外科 診療科目の届出
平成23年	4月1日	小島寛教授 病院長に就任
平成24年	5月22日	病理診断科目の届出
平成25年	4月1日	小児科、整形外科開設
平成25年	6月7日	（財）日本医療機能評価機構更新認定
平成26年	4月1日	阿南 壽教授、大星博明教授 副病院長に就任
平成26年	11月3日	電子カルテシステム導入、運用開始
平成27年	4月1日	池邊哲郎教授 病院長に就任
平成27年	10月1日	皮膚科開設
平成28年	4月1日	高橋 裕教授、篠原徹雄教授 副病院長に就任
平成28年	5月27日	リハビリテーション科 診療科目の届出
平成29年	4月1日	樋口勝規教授 副病院長に就任
平成29年	11月1日	内視鏡センター・訪問歯科センター開設

2. 組織図



3. 管理者および役職員

病院長 池邊 哲郎

副病院長 高橋 裕

副病院長 篠原 徹雄

副病院長 樋口 勝規

【診療科長】

診療科名	科長	診療科名	科長
総合歯科・高齢者歯科	廣藤 卓雄	内科・脳・血管内科・循環器内科・腎臓内科・糖尿病内科	大星 博明
訪問歯科センター	森田 浩光	心療内科	金光 芳郎
保存(むし歯)・歯周病科	坂上 竜資	外科・消化器外科・腫瘍外科・乳腺外科・肛門外科	篠原 徹雄
補綴(入れ歯)科	高橋 裕	形成外科・美容外科	萩家 康弘
口腔インプラント科	城戸 寛史	耳鼻咽喉科	山野 貴史
口腔外科	池邊 哲郎	眼科	川野 庸一
矯正歯科	玉置 幸雄	小児科・神経小児科	鳥巢 浩幸
小児歯科	尾崎 正雄	整形外科・リハビリテーション科	井上 敏生
障害者歯科	小島 寛	皮膚科	古村 南夫
口腔放射線診断科・放射線診断科	湯浅 賢治	口腔病理診断科・病理診断科	橋本 修一
歯科麻酔科・麻酔科 (ペインクリニック)	谷口 省吾	内視鏡センター	池田 哲夫

【施設長】

施設名	施設長	施設名	施設長
臨床検査室	大星 博明	病棟	井上 敏生
総合診療室手術室	城戸 寛史	医療情報室	大星 博明
放射線室	湯浅 賢治	病診連携室	井上 敏生
中央技工室	城戸 寛史	栄養管理室	池邊 哲郎
中央手術室	谷口 省吾	予防接種センター	岡田 賢司
滅菌・器材室	谷口 省吾		

【部・課】

部局・課名	部・課長	部局・課名	部・課長
看護部	松尾 佳代	薬局	外尾 典子
歯科衛生士部	安河内ひとみ	病院事務課	福永 重智

4. 職員数

【歯科医師】

教授	准教授	講師	助教	医員	研修歯科医
17	13	15	40	58	40

【医師】

教授	准教授	講師	助教
10	2	3	17

【医療職等】

薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	歯科技工士	管理栄養士	視能訓練士
3	3	5	4	1	2

視能検査技師	理学療法士	言語聴覚士	ソーシャルワーカー	歯科衛生士	看護職員
1	3	1	1	32	45

臨床研修歯科医

プログラム数	募集定員	
	複合型	単独型
2	95	20

【採用数】

平成27年度	平成28年度	平成29年度
48	39	40

【協力型臨床研修施設数】

平成27年度	平成28年度	平成29年度
88	90	89

5. 病院収入（平成28年度）

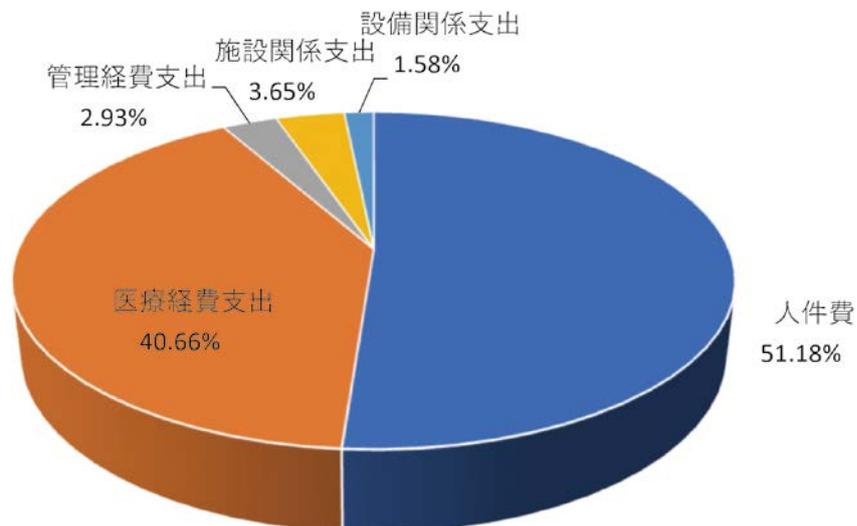
a. 収入予算

事 項	収入額（千円）	構成比（%）
補助金収入	31,706	1.95
付随事業・収益事業収入	2,617	0.16
医療収入	1,568,441	96.44
雑収入	23,587	1.45
合 計	1,626,351	100.00



b. 支出予算

事 項	支出額（千円）	構成比（%）
人件費	821,507	51.18
医療経費支出	652,713	40.66
管理経費支出	47,073	2.93
施設関係支出	58,665	3.65
設備関係支出	25,310	1.58
合 計	1,605,268	100.00



6. 診療科別患者数

(平成28年度)

診療科名	外 来		入 院	
	患者数	1日平均	患者数	1日平均
総合歯科	15,082	56.4	—	—
口臭クリニック	102	0.4	—	—
高齢者歯科	9,787	36.6	—	—
訪問歯科	2,534	9.5	—	—
保存（むし歯）・歯周病科	23,929	89.5	—	—
補綴（入れ歯）科	15,630	58.4	—	—
口腔インプラント科	6,735	25.2	8	0.0
口腔外科	13,600	50.8	2,989	8.2
スポーツ歯科	0	0.0	0	0.0
口腔顔面美容医療センター	852	3.2	0	0.0
矯正歯科	11,502	43.0	—	—
小児歯科	11,637	43.5	44	0.1
障害者歯科	5,469	20.4	40	0.1
歯科麻酔科	563	2.1	—	—
放射線科	13,743	51.4	—	—
歯 科 計	117,422	439.0	3,081	8.4
内科	16,066	60.1	1,373	3.8
小児科	2,650	9.9	0	0.0
心療内科	2,462	9.2	58	0.2
外科	4,119	15.4	1,458	4.0
整形外科	6,273	23.5	1,633	4.5
皮膚科	4,268	16.0	0	0.0
形成外科	1,652	6.2	52	0.1
耳鼻咽喉科	4,098	15.3	802	2.2
眼科	6,328	23.7	1,101	3.0
麻酔科	1,036	3.9	0	0.0
医 科 計	48,952	183.0	6,477	17.7
合 計	166,374	622	9,558	26.2

a 年度別患者数

外 来			入 院		
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
170,849	177,804	166,374	10,896	10,011	9,558

b 年度別1日平均患者数

外 来			入 院		
平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
636	662	622	30	27	26.2

7. 診療科の紹介

【内科・脳血管・循環器・腎臓・糖尿病内科】



科長 大星博明

[概要]

一般内科全体を診療していますが、特に脳卒中、心臓病、慢性腎臓病に対して、大学病院内での十分な精密検査のもと生活の質を重視した診療を行うとともに、高血圧症や糖尿病などの基礎疾患の治療の必要性を十分に理解いただいて丁寧な医療を提供することを心懸けています。

また、超高齢化社会に対応し、耳鼻咽喉科や高齢者歯科と共同した嚥下障害の治療に取り組んでいます。関連施設である老人保健施設や指定介護老人福祉施設（特養）との連携も密にしています。

[対象疾患]

- ・ 脳卒中：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頸動脈狭窄・閉塞症など
- ・ 循環器疾患：治療抵抗性高血圧、二次性高血圧、虚血性心疾患など。
- ・ 腎臓病：無症候性血尿、蛋白尿、腎炎、電解質異常、急性および慢性腎不全など
- ・ 糖尿病：1型糖尿病、2型糖尿病、二次性糖尿病など

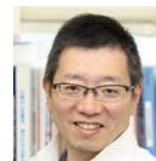
[得意分野]

総合内科専門医、脳卒中学会専門医、高血圧学会専門医、循環器学会専門医、腎臓病学会専門医、透析医学会専門医、糖尿病学会専門医が、それぞれの専門的な診療にたずさわるとともに、超高齢化社会に対応して、高齢者が有する多くの疾患に対して、包括的な診療を行います。

[学会認定施設]

日本老年医学会、日本高血圧学会

【外科・消化器外科・腫瘍外科・乳腺外科・肛門外科】



科長 篠原徹雄

[概要]

地域の医療機関と密に病診連携をとり、迅速に入院・治療できるように心がけています。消化管や乳腺の腫瘍などの手術から化学療法はもとより、胆石症・鼠径ヘルニアや肛門疾患の診断治療、消化管内視鏡検査にも携わる守備範囲の広い診療科です。

[対象疾患]

- ・ 胃癌，大腸癌，乳癌など悪性腫瘍
- ・ 胆石，胆嚢ポリープ，鼠径ヘルニア，虫垂炎など良性疾患
- ・ 痔核，痔瘻，直腸脱などの肛門疾患

[得意分野]

当科は消化管疾患，肛門疾患，乳腺疾患の診断治療を行っています。肛門疾患は特に女性医師による診察が可能です。虫垂炎や胆石・胆嚢炎の手術では，可能な限りおへそからの傷だけで手術しています（単孔式腹腔鏡手術）。

上部消化管内視鏡検査（年間400例）、腹部超音波検査（年間100例）、乳腺超音波検査（年間200例）、マンモグラフィー（年間600例）、下部消化管内視鏡検査（年間200例）

[学会認定施設]

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本食道学会



【内視鏡センター】



科長 池田哲夫

[概要]

2018年11月1日より、内視鏡（治療）センターを開設しました。これまでは、外科にて消化器疾患全般の治療を行ってきましたが、昨今その内容が、さらに内視鏡（腹腔鏡を含む）治療が中心となってきていますので、それに伴いセンター化させていただくこととなりました。内視鏡センターでは通常の内視鏡検査に加えて内視鏡治療と内視鏡外科手術を行なっています。

[対象疾患]

内視鏡検査は食道・胃・十二指腸疾患に対する経口内視鏡、経鼻内視鏡、大腸ガンなどの大腸疾患に対する大腸内視鏡、そして総胆管結石・胆石症などの胆道疾患に対する胆道内視鏡検査を鎮静下に苦しまずに受けられます。内視鏡は消化管の中に入り、臓器の内側を見ることができる医療機器ですが、「見る」だけでなく、胃・食道・大腸直腸の内視鏡的ポリープ切除術（ポリペクトミー）、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層はく離術（ESD）や胆道結石や胆道狭窄に対する碎石・採石およびステント留置を行うことができます。

[得意分野]

内視鏡外科手術は、従来法に比し侵襲が少なく、術後回復が早く、形容的に優れているなどの長を有しております。当初は比較的手術操作が簡単な腹腔鏡下胆嚢摘出術に導入されましたが、手術手技の確立と医療機器の開発により手術適応の拡大と保険収載される手術術式が増え、胃、大腸の早期癌だけでなく、進行癌や肝臓、膵臓のがんにおいても標準術式として適応されるに至っています。

[所属学会]

日本消化器内視鏡学会（専門医、指導医）、日本内視鏡外科学会（技術認定医、技術審査員）、日本消化器外科学会（専門医、指導医）、日本外科学会（専門医、指導医）



【整形外科・リハビリテーション科】



科長 井上敏生

[概要]

四肢体幹の運動器疾患、特に足部疾患に対して、質の高い治療を行うとともに、日常診療全般において安全に留意した治療を行います。手術は、基本的に入院にて行います（日帰り入院も含む）。リハビリテーションにも力を入れています。

[対象疾患]

運動器疾患全般の診察・治療を行います。足部疾患では外反母趾などの足趾の変形と疼痛、捻挫や軟骨障害等のスポーツ障害、変形性足関節症や成人扁平足などの変性疾患などがあります。また、骨折や靭帯損傷などの外傷性疾患、変形性関節症等の変性疾患等に対し、小児から高齢者まで、診断・治療を行います。

[得意分野]

整形外科全般ですが、特に足部疾患です。関節鏡（内視鏡）による治療も行います。また、靴による痛み等に関する相談も受け付けます。

[学会認定施設]

【小児科・神経小児科】



科長 鳥巢浩幸

[概要]

子どもたちへの“思いやり”を基本に、安心・安全な医療を提供するとともに、地域や院内他部門との緊密な連携をはかり、質の高い医療をめざします。

子ども一人一人に対応した包括的かつ個別的な医療の提供を信条としています。専門外来は完全予約制で、十分な時間を確保し、詳しくお話をお聞きしたうえで、診察、検査、治療、生活指導を行っています。

[対象疾患]

小児疾患全般。

日本小児科学会小児科専門医、日本感染症学会専門医、日本小児神経学会小児神経専門医、日本てんかん学会てんかん専門医が一般外来と専門外来を行っています。

[得意分野]

当科は福岡県予防接種センターの一つに指定されています。

予防接種（ハイリスク患者・海外渡航者の予防接種、コソホ現象の対応も含む）、小児神経疾患（けいれん性疾患、発達障害など）、ワクチン接種（A型肝炎ワクチンや髄膜炎ワクチンなどを含んだ国内で承認されたワクチン）、パリビズマブ投与。

[学会認定施設]

日本小児科学会、日本小児神経学会

【皮膚科】



科長 古村南夫

[概要]

皮膚科疾患全般（皮膚炎、真菌感染症、皮膚腫瘍、ざ瘡など）の診断と治療を行っています。皮膚腫瘍や皮下組織軟部腫瘍の生検と病理組織学的診断、画像診断（CT、MRI、軟部組織超音波検査）を行っています。

[対象疾患]

重症ヘルペスウイルス感染症（顔面帯状疱疹、ハント症候群、カポジ水痘様発疹症）やアトピー性皮膚炎、重症薬疹の診断と入院治療を行っています。しみ・あざについては美容皮膚科のカウンセリングをはじめ、連携医療機関でのレーザー治療が可能です。

[得意分野]

・アレルギー検査は、歯科金属アレルギーのパッチテスト検査（要電話予約）、口腔アレルギー症候群や蕁麻疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギーなどの特異的IgE検査が可能です。

・難治性口内炎・歯肉びらんなど自己免疫性水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）が疑われる患者さんについては、血清中の自己抗体を検出するとともに、久留米大学病院皮膚科と連携して、皮膚あるいは粘膜生検による蛍光抗体法、免疫ブロット法などによる免疫学的検査と診断を行っています。

[学会認定施設]

【眼 科】



科長 川野庸一

[概 要]

ぶどう膜炎などの眼科領域の炎症性疾患の診断と治療、また外眼部（まぶたや眼窩）に生じる腫瘍性・炎症性疾患、眼瞼下垂や内反症、鼻涙管閉塞に伴う流涙症などについて対応しています。また、白内障・緑内障・糖尿病網膜症・網膜剥離など一般的な眼疾患についても、最新の検査・治療機器を用いて診断・治療をおこなっています。

[対象疾患]

白内障、緑内障の薬物療法及び手術治療。糖尿病網膜症、網膜血管閉塞症に対する薬物療法、レーザー治療、手術治療。加齢黄斑変性に対する薬物療法。黄斑前膜、黄斑円孔、網膜剥離に対する手術療法、ぶどう膜炎に対する診断と薬物療法。眼瞼下垂、内反症、眼部腫瘍性疾患に対する手術療法。流涙症に対する涙道内視鏡を用いた涙管チューブ挿入術 などです。

[得意分野]

白内障手術は日帰り手術か入院手術を患者さんの状況に合わせておこなっています。緑内障手術や網膜硝子体手術（血管新生緑内障や増殖性硝子体網膜症など重症例を含む）は入院でおこなっています。

主な検査装置として、光干渉断層撮影装置（OCT）、超音波断層撮影装置、レーザー眼軸長測定装置、角膜形状解析装置、角膜内皮撮影装置、自動視野計があります。

[学会認定施設]

日本眼科学会

【耳鼻咽喉科】



科長 山野貴史

[概 要]

耳鼻咽喉科は、聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚などの感覚器のエキスパートであると同時に、摂食嚥下・音声言語・呼吸などの機能と、それに必要な口腔咽頭喉頭鼻腔の専門的診察治療を行う診療科です。歯科との連携を生かした嚥下障害等の咽喉頭疾患を中心に扱っています。また、歯性上顎洞炎に対する内視鏡下鼻副鼻腔手術を積極的にすすめています。

[対象疾患]

- ・ 耳・めまい疾患： 突発性難聴、メニエール病、滲出性中耳炎、加齢性難聴
- ・ 鼻疾患： 慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症、鼻骨骨折
- ・ 咽喉頭疾患： 慢性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、声帯ポリープ、反回神経麻痺、急性喉頭蓋炎
- ・ 頭頸部疾患： 正中頸嚢胞、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、唾石症、甲状腺腫瘍、など

[得意分野]

嚥下の評価と訓練を得意としています。嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査、鼻咽腔内視鏡検査、音声・嚥下障害に対する外来、入院でのリハビリテーションや外科的治療、慢性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻副鼻腔手術、アレルギー性鼻炎に対する薬物治療、舌下免疫療法、外科的手術、加齢性難聴に対する補聴器 fitting、口蓋扁桃摘出術、気管切開術、喉頭微細手術等を行っています。頭ストロボスコーピー、純音聴力検査、インピーダンスオージオグラム、耳小骨筋反射、語音聴力検査ができます。

[学会認定施設]

日本耳鼻咽喉科学会

【心療内科】



科長 金光芳郎

[概要]

心療内科は、ストレスなど心理的な影響によって、体に症状が出る病気を治療する科です。現代のストレス社会においては、さまざまな影響により、知らぬうちに体の不調を抱えてしまうことが多くなっています。検査をしても異常が出ないのに症状が続く、治療をしてもなかなか症状が改善しない場合などに、心理的な影響によって症状が出る「心身症」であることがしばしばあり、適切に診断をして、適切な方法で治療を行うことによって、原因を解明し、症状を改善していくことができます。

[対象疾患]

ストレス性胃炎、機能性胃腸症、過敏性腸症候群（IBS）、緊張型頭痛、心因性嘔吐症、月経前症候群、更年期障害、摂食障害、心因性発熱、慢性疲労症候群、心因性多汗症、高血圧症、心因性ジストニア（斜頸・書痙）、心因性めまい、心因性耳鳴り、咽喉頭異常感、非定型歯痛、舌痛症、顎関節症、口腔異常感症、パニック障害、社交不安障害、不眠症、うつ状態（体の症状を伴う）など。

[得意分野]

身体の異常をよく調べたのちに、症状の背景にあるさまざまな要因について丁寧に検討します。その人にあった治療法を選択し、確認しながら治療を行っていきます。診察やカウンセリング、認知行動療法、リラクセス法の指導などを行いながら、必要に応じて有効な薬物療法を行います。

[学会認定施設]

日本心身医学会

【形成・美容外科】



科長 萩家康弘

[概要]

形成外科は人体の“形”を整えることを主な目的とした医学・医療です。診療内容を、1) 老化に伴う変形に対する治療（抗加齢美容医療）や、2) 「やけど」や「顔のケガ」のような外傷や傷跡の治療、3) 褥瘡や治りの悪い傷（難治性皮膚潰瘍）などの創傷管理・治療を柱にしています。

[対象疾患]

加齢にともなう顔や体の変形に対して当科で専門的治療を行い、これらは抗加齢（アンチエイジング）美容医療と呼んでいます。代表は、顔のしみ・しわ・たるみ、および老人性眼瞼下垂症（まぶたのたるみ）です。老人性眼瞼下垂は頭痛や肩こりなどの症状とも関係があり、手術により、これらの症状が改善する可能性があります。

[得意分野]

形成外科・美容外科全般をカバーしています。生活の質や変形を改善する手術は健康保険がきかないと思われていますが純粋な美容医療をのぞき、保険適用されるものもあるので診療内容だけでなく診療費についても、ご遠慮なくお問い合わせ下さい。完全予約制で十分時間をお取りしてご説明いたします。

[学会認定施設]

【口腔顔面美容医療センター / 歯科】



科長 山下潤朗

[概 要]

口腔顔面美容医療センターでは、重度歯周病の治療とその咬合回復、過度の咬合高径低下や白歯部咬合崩壊症例の咀嚼・審美機能回復など、いわゆる難症例の治療を担当しています。

[対象疾患]

ガミースマイルの治療、審美的歯冠延長術・根面被覆術、歯周組織再生療法、歯槽骨再建術、インプラント治療、オールセラミック修復です。また、顎骨壊死の発症リスクがある患者の観血的歯科治療も担当します。

[得意分野]

当センターでは、歯周、補綴、インプラントの専門医・指導医資格をもつエキスパートが、一口腔単位で患者さんの顎口腔系を診査して治療計画を立案します。保険外治療を含む治療計画と治療費の説明を十分に行い、患者さんの同意を得た上で診療を進めていきます。また、日本語での会話が困難で英語によるコミュニケーションを望む患者さんの歯科治療も担当します。

[学会認定施設]

【総合歯科・口臭クリニック】



科長 廣藤卓雄

[概 要]

総合歯科では、新患患者さんの初診業務と成人の虫歯、歯周病、入れ歯などの一般歯科治療を行っています。患者さんが自覚している口腔内の不調はもちろん、気付かずに悪くなっている部位はないかを調べ、十分な診査・診断の下、治療計画を立て総合的な治療を進めています。

当科では患者さんが複数の専門科を行き来することなく、一診療科にて安心して治療が受けられるよう、様々な分野の専門医が在籍し、その指導の下、治療を行っています。また、必要に応じて各専門診療科とも連携を取りながら、診療に当たっています。

[対象疾患]

成人の虫歯、歯周病、入れ歯などの一般歯科治療

[得意分野]

口臭が気になる患者さんの相談・診断・治療にあたる口臭クリニック、笑気鎮静法を利用した歯科治療、持病があって治療に注意が必要な患者さん、入院・手術・回復期からなる一連の周術期の患者さんや近隣の急性期病院の入院患者さんの口腔ケア・歯科治療も担当しています。

[学会認定施設]

【高齢者歯科】



副科長 内藤 徹

[概要]

高齢社会を迎えた現在、心疾患や脳血管疾患など、容易に歯科治療を行うことが困難な合併疾患を持つ患者さんが多くなってきました。高齢者歯科では、歯科治療中にこれらの疾患のために起こりうる問題に対応できるように、血压監視装置や心電図によって全身機能を管理したうえでの歯科診療に当たっています。また、車椅子のまま歯科治療を受けられる機材も用意しています。

さらには、本院への通院が困難な患者さんへの訪問歯科診療にも取り組んでいます。

[対象疾患]

- ・高齢者、特に全身疾患のある方のう蝕、抜歯、義歯作製、口腔ケア
- ・訪問が必要な歯科疾患一般
- ・摂食嚥下が困難な方の嚥下評価と嚥下訓練

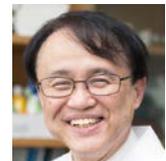
[得意分野]

医科主治医等と連携を取りながら、基礎疾患がある患者さんのう蝕の治療、抜歯、義歯の作製といった一般歯科治療を行っています。

脳血管疾患などによる嚥下障害の評価やリハビリテーション、胃瘻造設患者さんの摂食嚥下機能を評価することもできます。コンパクトな訪問診療器材や小型の内視鏡を用意していますので、訪問先での食形態の決定を行うなどもできます。

また、誤嚥性肺炎の予防のために口腔ケアを行っています。なお、病院や施設などで口腔ケアの講義や実習が必要な場合にも対応させていただきます。

[学会認定施設]



【保存（むし歯）科】

副科長 阿南 壽

[概要]

保存（むし歯）科では、「なるべく歯を残すこと」と「なるべく痛みのない治療」をモットーに、主にむし歯の治療と歯の根の治療（根管治療）を行っています。

日本歯科保存学会専門医・指導医、日本歯科保存学会認定医、日本歯周病学会専門医、日本外傷歯学会認定医・指導医を中心として、歯内療法を基盤とした包括的な歯科医療に取り組んでいます。また、他科および他院より御紹介頂いた難治性根尖性歯周炎の患者さんを担当しています。

[対象疾患]

象牙質知覚過敏症、むし歯、歯の破折、審美障害、歯髄炎、根尖性歯周炎、歯内－歯周疾患など。難治性根尖性歯周炎に対しては歯科用コーンビームCT検査および歯科用マイクロスコープによる検査を併用したマイクロエンド（精密根管治療）を行っています。

[得意分野]

むし歯・審美障害の修復治療、歯髄炎・根尖性歯周炎に対する根管治療、歯内－歯周疾患の専門的治療を行っています。また、難治性根尖性歯周炎に罹患した患者さんの病状をわかりやすく説明し、やさしい治療を心がけています。

[学会認定施設]

日本歯科保存学会、日本歯内療法学会、日本外傷歯学会



【歯周病科】



科長 坂上竜資

[概要]

歯周病科では、なるべく歯を抜かずに残っている歯を保存できるような治療を心がけています。そのためには、患者さんご自分で徹底的に歯磨きできるようになってもらうことが1番大切です。歯ぐきの中にたまった汚れは、われわれがスケーリングとルートプレーニングを行って、歯石とプラーク（バイオフィルム）を取り除きます。歯周病科では、必要に応じて歯周外科手術や、インプラント治療、かみ合わせの治療も行っています。

[対象疾患]

歯周病（歯肉炎、歯周炎）、歯周病にともなう歯の欠損部への治療

[得意分野]

歯周組織の再生療法、審美的な歯周組織の回復、歯周病患者へのインプラント治療、歯周組織の減少した患者への補綴治療、長期にわたるメンテナンスを可能にする管理などを行っています。

[学会認定施設]

日本歯科保存学会、日本歯周病学会、日本臨床歯周病学会

【補綴科（入れ歯科）】



科長 高橋 裕

[概要]

補綴科とは、取り外し式の入歯、固定性のクラウン（かぶせもの）・ブリッジやインプラントの製作などを行い、咬合（噛み合わせ）を回復し、咀嚼、発音、審美の改善を図る専門の診療科です。最新のデジタル技術（CAD-CAM）を取り入れた歯科補綴治療や審美治療、インプラントに関連する補綴治療、難症例の総義歯（総入れ歯）、局部床義歯（部分入れ歯）、さらに口腔がん術後の顎義歯（顎のない部分に入れる入れ歯）を他施設とも連携をしながら専門的に行っています。

[対象疾患]

歯の喪失や崩壊によって生じる障害（咀嚼障害、審美障害）、癌の切除に伴う顎欠損などを、金属冠（白い金属もあります）、ブリッジ、セラミック、インプラント、インプラント義歯、総義歯（総入れ歯）、局部床義歯（部分入れ歯）で治療します。顎関節症、歯ぎしりにも対応します。

[得意分野]

クラウン、ブリッジ、入れ歯など補綴物は全て手作りのオーダーメイドです。とても精密な作業ですので、診療の回数や時間などは、患者さん1人1人で全て異なります。患者さんごとに総合的な診査・診断を行い、治療方針を提示します。日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本老年歯科医学会の指導医や専門医が専門的な治療にあたっています。

[学会認定施設]

日本補綴歯科学会、日本口腔インプラント学会、日本老年歯科医学会

【口腔インプラント科・口腔インプラントセンター】



科長 城戸寛史

[概要]

金属（チタン）でできた人工歯根をあごの骨に植立することによって、本物の歯のような咀嚼を患者さんに提供することが我々の目的です。そのために、他の専門分野の先生と連携して総合的に治療するチーム医療を行っています。歯がない方では、少数のインプラントを入れることによって驚くほど安定した入れ歯を作ることができます。

[対象疾患]

歯の欠損部を補いたい方、入れ歯が合わない方、きれいな歯に作り替えたい方

[得意分野]

- ・最新のデジタル機器が完備されていますので、手術前に完全な手術シミュレーションを行って治療の準備を行っています。さらに、手術計画どおりの正確なインプラント手術を行うための最新機器が充実しています。
- ・インプラントの手術は麻酔科医による鎮静法と全身管理のもとに専用の手術室にて行い、安全で質の高い医療を提供しています。
- ・ほとんどのインプラント治療は日帰りの手術ですが、手術の内容や患者様のご希望によって全身麻酔による手術や入院も可能です。
- ・他院でのインプラント治療の続きやメンテナンスもご相談ください。

[学会認定施設]

日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会



【矯正歯科】

科長 玉置幸雄

[概要]

矯正歯科では、歯の並びのデコボコ、出っ歯、受け口などの咬み合わせの異常を治療します。歯の移動、顎成長のコントロール、手術的な顎骨の移動により、個々の患者様に合わせた理想的な咬み合わせに近づけます。これにより、咀嚼、発音、嚥下などの口腔の機能面が向上し、美しい歯並びによる清掃性や審美性の向上がもたらされ、口腔に関連するQOLが大きく向上します。

[対象疾患]

叢生（歯の並びのデコボコ）、上顎前突（出っ歯）、反対咬合（受け口）などの咬み合わせの異常、唇顎口蓋裂患者の歯並び、上顎、下顎のアンバランスな成長、未萌出の歯など。

[得意分野]

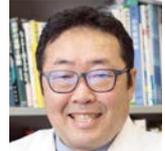
成長期の顎成長のコントロール、萌出異常歯に対する萌出誘導、口呼吸や口唇・舌の問題に対する筋機能訓練訓練（MFT）、上下顎骨の3次元的なズレに対する外科的矯正治療、唇顎口蓋裂の出生時からの顎矯正治療、歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正治療、補綴前矯正や部分矯正などを行います。

日本矯正歯科学会の認定医または指導医の資格を持つスタッフがカウンセリングを行います。矯正治療のメリットと治療上のリスクについて十分ご説明を行ってから治療を開始します。

[学会認定施設]

日本矯正歯科学会

【小児歯科】



科長 尾崎正雄

[概要]

小児歯科は、成長発達期の口腔医療に限定した歯科医学の一分野であり、単に子どもを対象とした治療ばかりで無く、身体的、精神的、社会的な面を考慮した歯科治療と口腔に関する様々な問題に取り組む診療科です。従って、歯科における全ての診療体系を含み、そのほかにも全身疾患、栄養学や心理学など幅広い知識もとに治療を行っています。

[対象疾患]

一般歯科治療、みし歯予防、歯の外傷、小児期の歯列不正、外科的処置（過剰歯）など

[得意分野]

本診療室は、西日本の大学病院で最初に作られた小児歯科で、多くの小児歯科専門医を輩出しています。現在は、小児歯科専門医指導医3名、小児歯科専門医3名が常勤で勤務しており、そのほかにも小児歯科専門医指導医の資格のある臨床教授が診療の指導にあたっています。本診療科は、子どもを対象とした歯科治療の他、小児の口腔外傷や外科的小手術および歯並び治療を得意としており、大学病院の特徴を活かした全身麻酔下での歯科治療なども行っております。

[学会認定施設]

日本小児歯科学会、日本小児口腔外科学会

【障害者歯科】



科長 小島 寛

[概要]

日本障害者歯科学会認定医制度の研修施設である当科は、知的障害や自閉スペクトラム症等の発達障害、精神疾患、身体障害を伴う患者さんの歯科治療を、障害者歯科を専門とするスタッフが集まってチームで行っています。小児から高齢者までさまざまな患者さんが来院されますので、小児歯科治療、修復処置、歯内処置、歯周処置、欠損補綴処置等、幅広い領域についてそれぞれを得意とするスタッフが治療に関わります。

[対象疾患]

知的障害や自閉スペクトラム症等の発達障害、精神疾患、身体障害を伴う患者さんの歯科治療全般。種々の疾患を有する患者さんも受け入れています。

[得意分野]

全身麻酔による歯科治療は毎週木曜日です。このほか、静脈内鎮静法も行っており、また、笑気ガスは各ユニットに配管されています。

知的障害者や発達障害者が歯科治療を受け入れるまでのトレーニングにも力を入れています。歯科へのイメージを切り替えることから始まり、最終的にはストレスなく歯科に足を運んでもらうことを目指しています。生涯にわたって口腔の健康を維持していくためには、前向きな気持ちで定期健診を続けてもらうことが重要だからです。

[学会認定施設]

日本障害者歯科学会

【訪問歯科センター】



センター長 森田浩光

[概要]

介護施設に入所中で身体的理由により通院ができない方、ご自宅にお住まいで寝たきりなどのために歯科診療所に行くことができない方、歯科のない病院（主に提携先病院）に入院中でお口の問題をお持ちの方やがん治療（手術・抗がん剤治療・放射線療法）をする方などにたいして、当院から診療器材を持参して歯科治療を行います。

当院から16km以内の地域に居住の方が対象となります。介護施設などで、入所者の歯科治療や、介護スタッフの口腔ケアの講習なども行います。

ただし、定期的に医科（内科、循環器科など）に通院されている方は対象になりません。

[対象疾患]

口腔ケアや応急処置をはじめ、体調が安定している方にはむし歯の治療、抜歯、義歯の作製といった一般歯科治療を行います。また、飲み込みの悪い方、ムセのある方の嚥下の検査やリハビリも行います。ご自分で歯磨きのできない方のご家族への口腔ケアの指導、介護施設のスタッフの方への講習も行います。

[アピール・得意分野]

介護施設入居中や在宅療養中の高齢者の口腔ケア・歯科治療だけでなく、通院困難な障害者の方や主に提携先急性期病院入院中の方の口腔ケア・歯科治療や応急処置を患者様の病態に応じて専門診療科やかかりつけの医師・歯科医師と連携して行います。

[学会認定施設]

日本有病者歯科医療学会、老年歯科医学会

【口腔外科・スポーツ歯科】



科長 池邊哲郎 副科長 平木昭光

[概要]

口腔外科とは、一般には「歯科口腔外科」と標榜されている診療科です。口腔粘膜や顎骨に発症する腫瘍、外傷、変形、感染、困難抜歯をはじめ、口腔内外に切開が必要な外科治療を主に担当しています。また、口内炎、唾液腺疾患、歯肉出血など医科との連携が必要な疾患の診断と治療も行います。入院設備もあり、全身麻酔で手術を行います。当直医が歯科の急患にも対応しています。

スポーツ歯科はスポーツ外傷を予防するためのマウスガード（マウスピース）の作製を担当しています。

[対象疾患]

親知らず（智歯）の抜歯、全身管理が必要な抜歯、顎顔面の外傷（骨折、創傷）、歯性感染症、口腔がん、各種腫瘍、嚢胞、顎変形症、ドライマウス、唾液腺疾患、口内炎（口腔粘膜潰瘍）等

[得意分野]

矯正歯科と連携した顎変形症の顎矯正手術、口腔がん手術と遊離皮弁を用いた再建手術、薬剤関連顎骨壊死の治療、睡眠時無呼吸症候群やスポーツ外傷予防のマウスピース作製、顎関節症および顎関節脱臼の治療。

[学会認定施設]

日本口腔外科学会、日本口腔腫瘍学会、日本がん治療認定機構施設、日本口腔科学会、日本有病者医療学会、日本顎関節学会

【麻酔科・ペインクリニック】



科長 谷口省吾

[概要]

手術や歯科治療のための全身麻酔、安心して歯科治療を受けられるように鎮静薬を投与して患者管理を行う精神鎮静法、さらに痛みや麻痺に悩む患者さんに薬物療法や各種の神経ブロックなどで治療を行うペインクリニックが麻酔科の主な業務です。

[対象疾患]

- ・全身麻酔
外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、口腔外科の手術、小児や障害者の歯科治療
- ・精鎮静法
歯科治療恐怖症、異常絞扼反射を有する患者の歯科治療、ストレスのかかる歯科治療、高血圧や心疾患など全身疾患を有する患者の歯科治療
- ・ペインクリニック
三叉神経痛、帯状疱疹、腰痛、肩こり、顔面神経麻痺、口腔痛など、全身の痛みやしびれ

[得意分野]

日本麻酔科学会認定麻酔科専門医、日本歯科麻酔学会認定歯科麻酔専門医を中心に麻酔管理や痛みの治療を行っています。



[学会認定施設]

日本歯科麻酔学会

【放射線診断科】



科長 湯浅賢治

[概要]

放射線診断科は画像診断業務を行っています。画像診断とは、通常のエックス線撮影、CT、MRI（磁気共鳴映像法）および超音波検査により体内の情報の画像化を行い、その画像からの異常の有無、疾患の性質や範囲の診断を行うことです。対象は、口腔関連のみならず全身を対象とした画像診断を行っています。

[対象疾患]

医科歯科問わず全身の疾患を対象としています。

[得意分野]

全身の疾患を対象として画像診断をおこなっていますが、なかでも頭頸部の悪性腫瘍や頸部リンパ節転移の画像診断には特に力をいれています。

[学会認定施設]

日本歯科放射線学会

【病理診断科】



科長 橋本修一

[概 要]

病理診断は、臨床上異常を指摘された患者身体の病変部が具体的にどのような変化を起こしているかの質的診断（例えば口腔癌などの癌病変、あるいは結核・肺炎などの炎症性病変など）および活動性評価（例えば癌では浸潤度、転移の有無など、結核・肺炎では菌の増殖や痰などへの排菌の有無など）を生検材料などの実際の組織・細胞上で判断し最終診断を下すことで、臨床における治療の方向性を決めるうえでの情報を提供するなど重要な業務を担っています。病理診断科では、福岡歯科大学医科歯科総合病院として求められる質の高い病理診断を行うことで患者さんによりよい医療を享受していただくために、各診療科とも密に連携した診断業務にあたっています。

[対象疾患]

各診療科から提出された組織・細胞検体および術中迅速標本

[得意分野]

病理および口腔病理専門医が相互にダブルチェック体制を組んで正確、迅速な診断を行うよう心がけています。また、診療科との症例検討カンファレンスを行い他科専門医との意見交換も重視するとともに日本病理学会などにも積極的に参加することで病理専門医としての能力の向上にも努め、日々、医療の向上を目指しています。さらに、患者情報の機密漏洩防止にも十分注意を払っています。

[学会認定施設]

8. 医療機関の承認・指定状況

1 医療機関の開設等

区 分	開設等年月日
医療法に基づく病院開設	昭和48年2月21日
臨床修練指定病院	昭和63年10月15日
日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	平成20年5月19日 (平成25年6月7日更新)
福岡県予防接種センター 指定	平成28年4月1日

2 学会認定

認定施設名	認定施設名
日本外科学会	日本顎関節学会
日本消化器外科学会	日本口腔顔面痛学会
日本食道学会	日本老年歯科医学会
日本眼科学会	日本障害者歯科学会
日本心身医学会	日本矯正歯科学会
日本老年医学会	日本小児歯科学会
日本高血圧学会	日本歯科放射線学会
日本歯科保存学会	日本歯科麻酔学会
日本歯周病学会	日本口腔外科学会
日本口腔インプラント学会	日本がん治療認定医機構
日本顎顔面インプラント学会	日本口腔腫瘍学会
日本補綴歯科学会	日本口腔科学会

3 施設基準届出

基本診療料	地域歯科診療支援病院歯科初診料		(病初診) 第25号
	歯科外来診療環境体制加算		(外来環) 第39号
	歯科診療特別対応連携加算		(歯特連) 第20号
	一般病棟入院基本料	10対1入院基本料	(一般入院) 第5号
	診療録管理体制加算2		(診療録) 第215号
	感染防止対策加算2		(感染防止2) 第104号
	退院調整加算		(退院) 第240号
	救急搬送患者地域連携受入加算		(救急受入) 第113号
	地域歯科診療支援病院入院加算		(地歯入院) 第6号

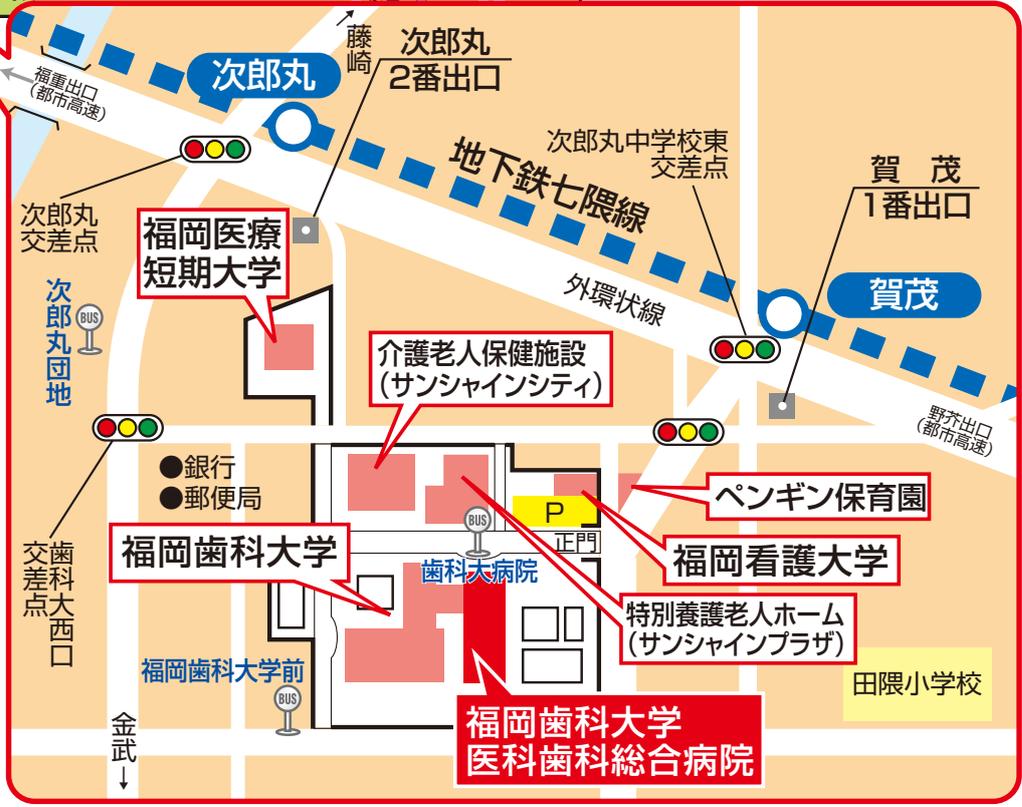
特掲診療料	がん性疼痛緩和指管理料		(がん疼) 第226号
	がん治療連携指管理料		(がん指) 第412号
	薬剤管理指管理料		(薬) 第412号
	歯科治療総合医療管理料		(医管) 第529号
	在宅患者歯科治療総合医療管理料		(在歯管) 第90号
	検体検査管理加算 (I)		(検I) 第308号
	神経学的検査		(神経) 第175号
	歯科画像診断管理加算1		(画歯) 第4号
	歯科画像診断管理加算2		(画歯) 第2号
	遠隔画像診断		(遠隔) 第7号
	CT撮影及びMRI撮影		(C・M) 第652号
	大腸CT撮影加算		(大腸C) 第37号
	無菌製剤処理料		(菌) 第132号
	運動器リハビリテーション (II)		(運II) 第703号
	脳血管疾患等リハビリテーション (III)		(脳III) 第283号
	呼吸器リハビリテーション (II)		(呼II) 第121号
	歯科口腔リハビリテーション料2		(歯リハ2) 第135号
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算		(造設前) 第26号
	う蝕歯無痛の窩洞形成加算		(う蝕無痛) 第56号
	CAD/CAM冠		(歯CAD) 第732号
	手術時歯根面レーザー応用加算		(手術歯根) 第23号
	歯科技工加算		(歯技工) 第337号
	網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いる)		(硝切) 第16号
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術		(ペ) 第147号

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	(通手) 第301号
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術(胃瘻造)	(胃瘻造) 第57号
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	(胃瘻造嚥) 第81号
歯周組織再生誘導手術	(GTR) 第153号
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	(人工歯根) 第8号
麻酔管理料1	(麻管) 第85号
口腔病理診断管理加算1	(口病診1) 第1号
クラウン・ブリッジ維持管理料	(補管) 第747号
歯科矯正診断料	(矯診) 第95号
顎口腔機能診断料	(顎診) 第1号

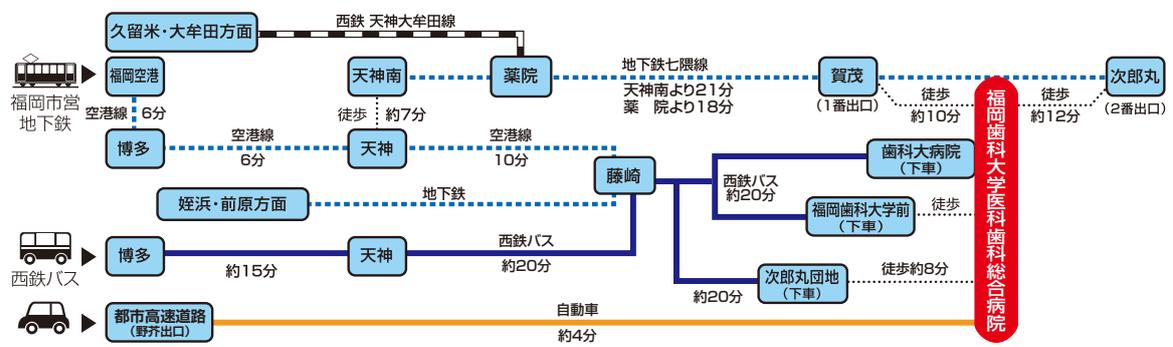


大駐車場完備(150台)

● 広い駐車場なので、待ち時間がなく駐車できます。ご利用下さい。



交通のご案内 (主要な経路)



福岡歯科大学医科歯科総合病院 〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号
 電話 (092)801-0411(代) FAX (092)801-0459
 ホームページアドレス <http://www.fdcnet.ac.jp/hos/>



(財)日本医療機能評価機構認定病院

福岡歯科大学医科歯科総合病院

www.fdcnet.ac.jp/hos/

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号

TEL 092-801-0411 FAX 092-801-0459

E-mail: hos@college.fdcnet.ac.jp